

第 1 回委員会議事要旨と指摘事項への対応について

- ・ 第 1 回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会
議事要旨・・・・・・・・1
- ・ 第 1 回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会
指摘事項への対応方針・・・・・・・・4

第1回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会 議事要旨

■日時：平成22年 2月18日（木） 15:00～17:00

■場所：明日香村健康福祉センター 「たちばな」 会議室1・2

■出席者：

<委員>

足立 久美子	歴史街道推進協議会メインルート事業部課長	
猪熊 兼勝	京都橘大学名誉教授	
岡本 直之	近畿日本鉄道株式会社副社長	
河上 邦彦	神戸山手大学現代社会学部教授	(ご欠席)
木下 正史	東京学芸大学文化財科学科特任教授	
関 義清	明日香村長	
八丁 信正	近畿大学農学部教授	
平野 侃三	東京農業大学名誉教授	
増田 昇	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	(ご欠席)
三輪 嘉六	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館長	
吉兼 秀夫	阪南大学国際コミュニケーション学部教授	

(敬称略、五十音順)

<協力委員>

建石 徹	文化庁文化財部古墳壁画室古墳壁面对策調査官 (代理出席者：井上 敏昭 古墳壁画室長補佐)	(代理出席)
加藤 真二	独立行政法人奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長	
森藤 勝彦	奈良県地域振興部地域づくり支援課長 (代理出席者：梅野 雅昭 地域づくり支援課長補佐)	(代理出席)
宮原 晋一	奈良県教育委員会文化財保存課主幹	
西藤 清秀	奈良県立橿原考古学研究所埋蔵文化財部長	
藤田 尚	明日香村政策調整課長	
北浦 敬教	明日香村教育委員会文化財課長	
新井 文秀	高取町企画財政課長	
杉平 正美	財団法人飛鳥保存財団事務局長	
高村 幸夫	国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官	

<事務局>

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

所長 舟久保 敏

調査・品質確保課 課長 三井 雄一郎

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事の公開について
4. 趣旨説明
5. 設置要領（案）の承認、委員長選出
6. 議事
 - (1) 基本計画および基本計画策定以降の検討について（報告）
 - (2) 体験的歴史学習のテーマ・内容について（討議）
 - (3) その他
7. 閉会

■議事要旨

1. 議事の公開について

- ・事務局より資料の確認があり、全会一致で承認された。

2. 趣旨説明

- ・事務局より委員会の趣旨について説明があった。

3. 設置要領（案）の承認、委員長選出

- ・事務局より委員会の委員会要領（案）の説明があり、全会一致にて了承され、同要領が平成22年2月18日より施行された。
- ・事務局より平野侃三委員を委員長とすることが提案され、全会一致で了承された。
- ・平野委員長より三輪嘉六委員が副委員長に指名された。

4. 委員からの主な意見

- ・本公園ではハードよりソフトや運用面での工夫が重要である。例えば、地元の方々やボランティアと連携して公園内の田畑を管理した場合、彼らが収穫物についても自由に利活用できるような「飛鳥方式」ともいうべき方式を創出してほしい。
- ・基本計画策定時には、渡来人の居留した本拠地は高取町などもう少し南だったのではという考えがあったが、その後の発掘調査によってその存在が明確になってきたので、歴史的体験では渡来人と関わりがあったことが強調されるべきである。
- ・検出された大壁建物などを復元せず別の形状で施設を作るのはいかなものか。
- ・檜隈寺跡は本地区にとっては肝心なものであり、文化庁管轄の史跡であるからといって公園事業では白抜きにするというのではなく、高松塚古墳のように文化庁と国交省が協調して整備を進めていくべきである。
- ・近年の発掘調査で従来想定されていなかった遺跡の発見があったことは、新たな事実として慎重に受け止め、場合によっては基本計画の見直しを含めて議論を進めていく必要がある。

- る。
- ・この地は、大和政権によって渡来人が入植された前史があり、その特性を計画に位置付けていく必要がある。同時に、飛鳥の歴史空間の中での位置付けも意識する必要がある。
 - ・渡来人のもたらした技術・文化そのものを拾い上げることに終始せずに、それらが段階的に日本の技術・文化と融合していった点にも注目する必要がある。
 - ・ユーザーの視点に立って飛鳥を議論するべきである。また、地域との連携や市民との共生の視点が大切である。
 - ・キトラ古墳、檜隈の特性を生かすためにも、それぞれの特性を体験的歴史学習の中にしっかりと位置付けることが大切である。
 - ・本地区における体験的歴史学習ではかなり広い範囲のことを対象としており、運営は多くのボランティアの参加が欠かせない。そのため、多くのボランティアをコーディネートするエデュケーターをどうつくるかが重要である。
 - ・公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」や飛鳥地方で活動している観光ボランティアガイドなどがエデュケーターとして育ててほしい。
 - ・明日香村では、飛鳥保存財団も大学と連携しながら活動しているので、大学との関係を深めながらやっていくことも重要である。
 - ・ボランティアについては、飛鳥らしい独自のやり方で考えていくことが必要である。
 - ・開園前イベントプログラムのような開園前から地元と一緒にやる取り組みは重要である。
 - ・1回の体験で完結するプログラムと、継続的なプログラムとではかなり形が異なるので、そのあたりの整理が必要である。
 - ・飛鳥への来訪者がただ風景を楽しむだけでなく、歴史を学びつつ、だんだんと飛鳥のイメージを深めていくといった段階的なプログラムがあるとよいと思う。
 - ・本地区だけではなく、他の施設と連携していくことが重要である。
 - ・体験する施設を地区内に整備することは賛成だが、檜隈寺跡の近辺（南側）は避けた方がよい。また、韓国の扶余で百濟村を復元しているので参考にしよう。
 - ・古墳のレプリカなど来訪者の知的好奇心をくすぐり、雨天時やシーズンのオン・オフに関係なく利用できる屋内施設があるとよい。
 - ・食事のできるレストラン程度があってもよいのではないか。
 - ・これまで凍結的保存を進めてきた結果残った資産や景観を生かして、地域が活きる明日香らしい産業をつくることにつながる議論を期待したい。

第1回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会
指摘事項への対応方針

分類	項目	委員意見	対応方針
①構想に盛り込むべき内容について		体験的歴史学習構想の内容について	
		<p>この地は、大和政権によって渡来人が入植された前史があり、その特性を計画に位置付けていく必要がある。同時に、飛鳥の歴史空間の中での位置付けも意識する必要がある。(木下委員)</p>	<p>本構想で定める学習分野の一つに「渡来人もたらした技術・文化」を、また、その中の項目の一つに「渡来人の足跡」(いつ、どこから、どのような働きがあったのか、等)を位置付けます。</p> <p>その上で、今後の計画・設計段階において、内容の詳細化を図る際に、その旨の解説を行うなどご意見を反映させるようにします。</p>
		<p>渡来人もたらした技術・文化そのものを拾い上げることに終始せず、それらが段階的に日本の技術・文化と融合していった点にも注目する必要がある。(木下委員)</p>	<p>学習分野「渡来人もたらした技術・文化」について、今後の計画・設計段階において、内容の詳細化を図る際に、ご意見に留意するようにします。</p>
		<p>キトラ古墳では古墳の寸分変わらないレプリカをここに作り、一般の人が全体の雰囲気を経験できればと思う。本物をどうするかという議論があるところであるが、世界的にみても本物は横に置いておいて、実際に書かれたものを触ることができるのが一般的である(岡本委員)</p>	<p>古墳壁画のレプリカについては、すでに文化庁が作成しておりますので、今後文化庁とも調整を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、実物の古墳壁画についても、保存管理する施設を公園内に設けることを基本としていくことが了解されましたので、その活用について文化庁その他の関係機関と協議するよういたします。</p> <p>なお、本構想では、学習分野の一つに「キトラ古墳とその保存・活用」(「古墳」にはそこにあった壁画も含むとの考えです)を、また、学習手法の一つに「壁画及びその模型の展示」を位置付けておきます。</p>
		地域活性化との関係について	
		<p>これまで凍結的保存を進めてきた結果残った遺産や景観を生かして、地域が生きる明日香らしい産業をつくることにつながる整備に期待したい(関委員)</p>	<p>本地区で行う体験的歴史学習については、様々な方が飛鳥に興味を持つきっかけとなるということを前提に、テーマ、分野を設け、各種手法を用いて展開していくこととしており、その旨を背景として記載しておくよういたします。</p>

分類	項目	委員意見	対応方針
②文化財保護と構想や施設整備の関連性について	檜前とキトラ古墳の位置づけについて	キトラ古墳、檜限の特性を生かすためにも、それぞれの特性を体験的歴史学習の中にしっかりと位置付けることが大切である。(木下委員)	本構想で定める学習分野として、キトラ古墳や渡来人の住み処であった檜前の特徴を活かし、「キトラ古墳とその保存・活用」「渡来人のもたらした技術・文化」を位置付けた上で、その成り立ちやどのような働きがあったのか等の各種学習を行うようにしてまいります。
	都市公園区域外である(史)檜限寺跡、キトラ古墳の一体的整備について	檜限寺跡は本地区にとっては肝心なものであり、文化庁管轄の史跡であるからといって公園事業では白抜きにするというのではなく、高松塚古墳のように文化庁と国交省が協調して整備を進めていくべきである。(猪熊委員)	本構想で定める学習分野の一つに「渡来人のもたらした技術、文化」を位置付けますが、当該学習分野に関連の深い檜限寺跡については、史跡周辺の公園整備を進める中で、今後の計画・設計段階においても、史跡の管理者である明日香村や発掘調査を行っている独立行政法人奈良文化財研究所などと調整を図ってまいります。
	(史)檜限寺跡及び檜前遺跡群近辺への施設配置について	近年の調査で想定されていなかった遺跡の発見があったことは、新たな事実として慎重に受けてとめて基本計画の見直しを含めて議論を進めていく必要がある(平野委員長)	遺跡の発掘成果については、渡来人の住み処であった檜前の特徴をより強化する内容のものであると考えており、学習分野「渡来人のもたらした技術・文化」の中で、その成果を活かすようにしてまいります。 なお、発掘箇所における建物施設(体験工房及び維持管理施設)の配置については再検討いたします(本構想においてはその旨を明記しておきます)。
	基本計画策定時には、渡来人の居留した本拠地は高取町などもう少し南だったのではという考えがあったが、その後の発掘調査によってその存在が明確になってきたので、歴史的体験では渡来人と関わりがあったことが強調されるべきである。(猪熊委員)	ご指摘のとおり、学習分野「渡来人のもたらした技術・文化」の中で、遺跡の発掘成果を活かすようにしてまいります。 なお、その際には、高取町における発掘成果との関係がどのようなものであるのかなど、両者を合わせた展開についても留意してまいります。	ご指摘のとおり、学習分野「渡来人のもたらした技術・文化」の中で、遺跡の発掘成果を活かすようにしてまいります。 なお、その際には、高取町における発掘成果との関係がどのようなものであるのかなど、両者を合わせた展開についても留意してまいります。
	検出された大壁遺構などを復元せずに違った別の形式で施設を作るのはいかがか。(猪熊委員)	建物施設に関し、発掘成果をもとにした形態意匠とするかということについては、周辺景観との調和や施設利用のしやすさといった点に留意しながら、さらにご議論をいただきたいと考えております。	建物施設に関し、発掘成果をもとにした形態意匠とするかということについては、周辺景観との調和や施設利用のしやすさといった点に留意しながら、さらにご議論をいただきたいと考えております。

分類	項目	委員意見	対応方針
②文化財保護と構想や施設整備の関連性について	(史) 檜隈寺跡及び檜前遺跡群近辺への施設配置について【続き】	体験する施設を地区内に整備することは賛成だが、檜隈寺遺跡の近辺(南側)は避けた方がよい。(猪熊委員)	ご意見を踏まえ、建物施設(体験工房)の配置については再検討いたします(本構想においてはその旨を明記しておきます)。
		オールシーズン化、移動手手段、宿泊機能など誘客戦略について	
③施設整備について		来訪者の知的好奇心をくすぐり、雨天時やシーズンのオン・オフに関係なく利用できる屋内施設があるとよい。(岡本委員)	現在計画している屋内施設(建物施設)において、ご意見を踏まえた内容の充実化を図ってまいります。
		祝戸荘のような古代食レストランがあってもいいのではないかと(岡本委員)	本地区では、簡易飲食施設の設置を考えております。古代食の提供については、本構想に記載する体験学習プログラムの手法の例の一つに食事体験を盛り込み、今後、当該施設での提供やイベント時における提供などを検討してまいります。 なお、祝戸荘については、本地区に比較的近く、研修・宿泊機能も有していることから、機能連携を図ろうと考えております。
		地域条件を考慮し、環境に配慮したハイブリッドバスなどについても構想で触れて欲しい。(岡本委員)	本構想は他施設との連携を想定し作成しているので、そのようなバスの運行について関係者と調整を図ってまいります。

分類	項目	委員意見	対応方針
④ソフト展開について	エドゥケーターなど人材育成について	<p>本地区における体験的歴史学習ではかなり広い範囲のことを対象としており、運営は多くのボランティアの参加が欠かせない。そのため、多くのボランティアをコーディネートするエドゥケーターをどうつくるかが重要である。（三輪副委員長）</p>	<p>具体的な手法について更なる議論が必要ですが、既存団体や大学との連携などを本構想に反映いたします。また、エドゥケーター等につきましては、導入機能として「人材育成」を盛り込み、今後の計画、設計、管理運営に反映してまいりたいと思います。</p>
	<p>公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」や飛鳥地方で活動している観光ボランティアガイドなどがエドゥケーターとして育てほしい。（吉兼委員）</p>		
	<p>明日香村では、飛鳥保存財団も大学と連携しながら活動しているので、大学との関係を深めながらやっていくことも重要である。（吉兼委員）</p>		
	開園前イベントプログラムについて	<p>開園前イベントプログラムのような開園前から地元と一緒にやる取り組みは重要である。（吉兼委員）</p>	<p>開園前イベントプログラムにおいて、地域の方々の参画をいただいております。今後も地元や多様な主体に管理に関わっていただく点を本構想の展開手法の部分に盛り込むとともに、今後の計画・設計等の段階で、関係する方々から、より密に意向を伺う機会を設けるなどしてまいります。</p>
	<p>ユーザーの視点に立って飛鳥を議論すべきであり、地域や市民との共生の視点が大切である。（三輪副委員長）</p>		
	プログラムについて	<p>1回の体験で完結するプログラムと、継続的なプログラムとはかなり形が異なるので、そのあたりの整理が必要である。（八丁委員）</p>	<p>体験的歴史学習のプログラムについては、単一回から複数回まで幅広い形態の展開を考えており、ステップアップ型等のリピーターに対応した学習メニューや、周辺施設におけるプログラムとの連携について、プログラム例として本構想に記載するようにいたします。</p>
	<p>飛鳥への来訪者がただ風景を楽しむだけでなく、歴史を学びつつ、だんだんと飛鳥のイメージを深めていくといった段階的なプログラムがあるとよいと思う。（足立委員）</p>		
	<p>この地区だけではなく他の施設と連携していくことが重要である（足立委員）</p>		

分類	項目	委員意見	対応方針
④ソフト展開について	世界遺産との関係について	<p>世界遺産の取組みについて、県、文化庁と十分に調整して欲しい。</p> <p>また、世界遺産の一つの評価として、遺跡自体のみならず、それを管理していくシステムを重要視しているのが近年のあり方であるので、そのためにも飛鳥らしいボランティアとの連携を重視して欲しい。（三輪副委員長）</p>	<p>ご指摘を踏まえ、世界遺産への登録に向けて必要な要件に留意し、必要に応じて県や文化庁との調整を進めてまいります。</p> <p>また、地元ボランティアの方々についても、今後の計画・設計等の段階でこれまでより密に意向を伺う機会を設けるようにしてまいりたいと考えております。</p>
	里地里山体験フィールドにおける収穫物の帰属について	<p>本公園ではハードよりソフトや運用面での工夫が重要である。例えば、地元の方々やボランティアと連携して公園内の田畑を管理した場合、彼らが収穫物についても自由に利活用できるような「飛鳥方式」ともいうべき方式を創出してほしい。（吉兼委員）</p>	<p>他の都市公園における景観作物の扱いについて事例調査などを行い、計画段階で留意していくようにいたします。</p>